

第 200 回 有馬温泉の行基像、秀吉像、及びねね像

筆者：林 久治（記載：2022 年 9 月 16 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいたので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

この頃、私は第 4 回目の予防接種を予約し、7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めた。娘から「今月は、大阪に来るのを見合わせたら」と言われたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

私大阪行きを予定していた 7 月の 3 連休後、3 人の孫達全員が陽性になってしまった。第 7 波は、いよいよ身近まで押し寄せて来たのであった。幸い、症状は軽く、上下の孫は 1 日だけ 38℃ の発熱があっただけで、中の孫は陽性ながら無症状であった。彼らの両親は陰性であった。丁度その頃に、私共夫婦が孫達と遊んでいれば、後期高齢者が感染するリスクがあったわけである。

一方、東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃ 以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索を自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には人出の少ない新国立競技場周辺で秩父宮像などを探索した。次に涼しくなった 8 月 28 日には、宝生能楽堂の銅像を探索した。なお、私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

先週は、私共は大阪に滞在し、9 月 8-9 日に孫娘を連れて有馬温泉に 1 泊した。当地の行基像、秀吉像、及びねね像は大変有名で、[1\) のサイト/](#)にも勿論収録されている。しかし、本サイトには銅像の基本情報が記載されていなかったため、今回探索した次第である。本稿は、今回の探索記である。本稿では、私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

(2) 有馬温泉の紹介

有馬温泉は日本最古の温泉の一つと呼ばれている。その歴史は、次節（行基像の項）で紹介する。有馬温泉の地図を、図1に示す。



図1. 有馬温泉の中心部の地図、本図は、[3\) のサイト/4](#)より借用。

東京から熱海温泉に行く場合は、新幹線や東海道線の快速電車など、直通電車が多くて便利である。一方、有馬温泉の場合は、神戸電鉄の有馬温泉駅があるが、大阪からの直通電車はない。その代わりに、高速バスを利用すれば、高速道路を通過して（渋滞がなければ）1時間程度で到着することが出来る。従って、自家用車があれば、大阪から簡単に行けるようである。しかし、大阪在住の息子は車を持たないので、今回は高速バスを利用した。



図2. 有馬温泉に行く鉄道。

赤：神戸電鉄有馬線（1928年開業）、
青：JR宝塚線（JR三田駅で神戸電鉄に
乗換）、

黒：国鉄有馬線（1915-1943）。

本図は、[4\) のサイト/](#)より借用。

有馬温泉付近の鉄道は、国鉄有馬線が最初で、往時には大阪・有馬間に直通列車が運行されていた。しかし、先の大戦中、不要不急線として廃止された。

（3）行基像

温泉街を登って行くと、「ねがい坂」両側に温泉寺、極楽寺、及び念仏寺という立派な寺院が建っている（場所は、図1を参照）。[5\) のサイト/1](#)によれば、「ねがい坂」の由来は次の通りである。

お寺がいくつかまとまってある地域の坂なので、お寺に願をかけるということで「ねがい坂」と呼ばれるようになった。

温泉寺、念仏寺、及び極楽寺の写真を次ページの図3に示す。[6\) のサイト/1](#)には、温泉寺の由緒を次のように書いている。

温泉寺は、薬師如来のお導きで有馬を訪れ、有馬温泉の開祖とされる行基上人によって、724年に建立された古刹で、江戸時代の中期以降は、禅宗黄檗派になっています。その後、鎌倉時代の初めに温泉を再興された仁西上人を中興の祖と仰いでいます。毎年1月2日には、行基上人像と仁西上人像を神輿に乗せて、有馬の温泉街を練り歩いた後、初湯で沐浴していただく入初式（いりぞめしき）が古式ゆかしく行われます。温泉寺は、かつては、本堂の薬師堂を中心に湯泉神社（湯山三所権現）や別当権現坊などがある大きなお寺でしたが、幾度もの火災に遭い、次第に衰退してきました。1576年に全山に及ぶ大火災で焼失しましたが、直ちに北政所「ねね」によって再建されました。その後、再び火災があり、1582年に現在の薬師堂が建立されました。しかし、明治政府の廃仏毀釈の方針で、秀吉が有馬大茶会を催したとされる阿弥陀堂も含め、薬師堂以外の堂塔は全て取り壊されてしまいました。その後、廃寺となった旧温泉寺の奥の院であった黄檗宗清涼院が寺籍を継いで現代に至っています。



図3. 上：温泉寺、下左：念仏寺、下右：極楽寺。

[6\) のサイト/1](#)には、念仏寺の由緒を次のように書いている。

念仏寺は、秀吉の正室、北政所「ねね」の別邸跡と言われる見晴らしのよい、有馬温泉の中心街でも一等地の高台にあります。炭着上人の開基で1538年に創建されました。ご本尊は快慶作と伝えられる阿弥陀仏立像で、法然上人画像「月輪御影(つきわのみえい)」も寺宝として所蔵されています。また、神戸七福神巡りの一つ“寿老人”も祀られており、参詣人が年中絶えません。当初は谷之町にありましたが、約400年前に現在地に移っており、1703年の有馬大火災により焼失しましたが、1711年に再興されました。翌1712年に建立された本堂は、有馬温泉で最も古い建築物とされています。また、この寺の石垣も有馬で一番古いと言われ、「ねね」が寄進したと伝えられる見事な石材が使われています。

この寺は、沙羅双樹、蛤(はまぐり)石、雀石のある美しい庭園があることでも有名です。この庭園は、樹齢270年という沙羅双樹の大樹があるので、「沙羅樹園」とも呼ばれています。この沙羅双樹は夏椿とも呼ばれる純白の花で、開花しても一日で散ってしまい、平家物語のように人生のはかなさを感じられる花とされています。

6) のサイト/1には、極楽寺の由緒を次のように書いている。

極楽寺は、聖徳太子によって593年に創建されましたが、江戸時代に大火で焼失しました。火事から9年後の1728年に再建されたのが現在の建物です。阪神淡路大震災で大きな被害を受けた庫裡の再建の際に、床下から太閤秀吉が造らせた「湯山御殿(ゆのやま・ごてん)」の一部と見られる遺構が発見されました。これらの遺跡と出土品を保存・公開し、秀吉とゆかりの深い有馬温泉の歴史と文化を紹介するため、極楽寺に隣接して建てられたのが「太閤の湯殿館」です。

図1に示すように、温泉寺の前に「ねがいの庭」と呼ばれる小さな庭があり、そこに行基像が設置されていた。その写真を、図4左に示す。この庭は、手前から、「ねがいの泉」(ここで、温泉水が飲めます)、「有馬温泉の歴史」の説明板、「行基像」、および「三羽の鳥像」が設置されていた。



図4. 左: 「ねがい坂」にある「ねがいの庭」、右: 「ねがいの庭」にある行基像。

「ねがいの庭」にある行基像を図4右に示す。彼は有馬温泉の大恩人と呼ばれているが、本像は安っぽいFRP像であった。「日本最古の温泉」と自負するなら、その恩人の像はもっと立派に作るべきであろう。本像の周辺には、制作者や建立年の記載はなかった。図4右には、本像向かって左側に案内板が写っている。ここには、次のように書かれていた。

有馬温泉の歴史

有馬温泉の歴史は古く、神代の昔、大己貴命（おおなむちのみこと）と少彦名命（すくなひこのみこと）の二神が三羽の傷ついた鳥が湧き出した泉で傷を癒しているのを見つけて温泉を発見したのが始まりだといわれております。

「日本書紀」にも、舒明天皇（631年）や孝徳天皇（647年）が御幸したとの記述があり、日本最古の温泉といわれております。

有馬温泉が世に広く知られるようになったのは、奈良時代に行基菩薩が温泉寺を建立し、また、鎌倉時代には仁西上人が十二の宿坊を建ててからといわれ、さらに太閤秀吉公は、湯治のためたびたび有馬を訪れ、戦乱や大火で衰退した有馬の改修を行い、湯山御殿（太閤の湯殿館に湯船の遺構が現存）を建てました。

江戸時代になってからは、その効能により全国でも評判の湯治場となった有馬には多くの人々が湯治に訪れ、有馬千軒といわれる繁栄をするにいたり、その繁栄はこんにちの礎となっております。

以上の資料などにより、行基像の概要は次の通りである。

行基菩薩像

設置場所：兵庫県神戸市北区有馬温泉ねがい坂温泉寺前 ねがいの庭

建立時期、制作者は不明、本像はFRP像である。

設置経緯：「ねがいの庭」には、向って右から「三羽のカラス像」、本像、「有馬温泉の歴史」の説明文、及び「ねがいの泉」（温泉水が飲めます）が設置されている。有馬では、行基は温泉開発の大恩人と言われており、本像は「行基菩薩像」と呼ばれている。

（4）秀吉像とねね像

図5に、太閤橋からねね橋を望む写真を示す。有馬川の両岸にある親水公園の奥に見える小さな赤い橋が「ねね橋」である。



図5. 太閤橋からねね橋を望む

有馬温泉の秀吉像とねね像は大変有名であるが、[1\) のサイト/](#)をはじめとして、両像に関する殆どすべてのネット記事は、その来歴を記載していない。[7\) のサイト/7](#)だけは例外で、両像の制作者名と寄贈者を記載している。そこで、私は有馬温泉に1泊した機会に、両像の来歴となる資料を探索した次第である。



図6.
左：秀吉像、
右：本像の台座に貼られたプレート。

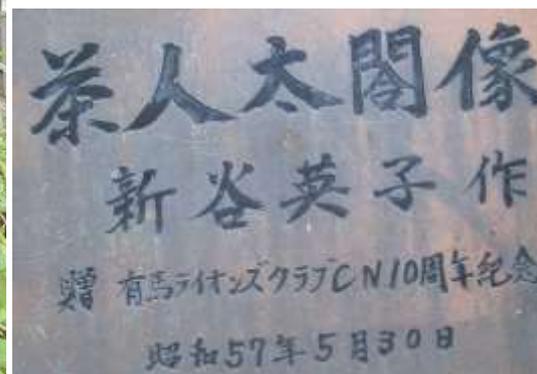


図5の太閤橋を渡って、写真の右方向に行くと、道路の傍に「ゆけむり広場」という小公園があり、そこに1基の銅像が設置されていた（設置場所は、図1を参照）。本像の周辺には何の説明もなかったが、「これが秀吉像だ」ということは分かった。本像の写真を、図6左に示す。台座にも、何も書いてないので、これでは本像の由来は不明である。

そこで、試みに本像の左側の笹の葉っぱをどけて見ると、そこには1枚のプレートが貼られていた。その写真を図6右に示す。これより次の事が分かった。

本像の名称：茶人太閤像、制作者：新谷英子

寄贈：有馬ライオンズクラブ CN10周年記念

日付：昭和57年5月30日

（なお、CNとは、チャーター・ナイトと呼ばれ、新たに設立されたライオンズクラブが国際協会の一員となった証として交付される認証状の伝達式のことである。）

図5の太閤橋から川岸に下りると、そこは「親水公園」という名称の遊歩公園になっていて、水遊びが可能になっていた。川岸を上流方向に歩いて行くと、赤い小橋が架かっていた。この橋が有名な「ねね橋」である。川岸からねね橋に登って行くと、橋畔に1基の銅像が設置されていた。その写真を次ページの図7上に示す。幸いにも、本像の台座には、2枚の石板が貼れていた。その写真を図7中と下に示す。それには、次のように書かれていた。

本像の名称：ねねの像、題字の筆者：神戸市長笹山幸俊、建立日：平成9年4月10日、制作者：新谷英子

寄贈：有馬ライオンズクラブ 20周年、25周年記念（本文は、9ページに続く。）



図7.

上：ねねの像

中：本像台座の題字、

下：本像台座の石碑。



私は、以上の資料により両像の来歴を確認できた。なお、両像とも、新谷英子さんの作品である。彼女の経歴は次のサイトに書かれている：[8\) のサイト/6](#)、[9\) のサイト/D](#)、[10\) のサイト/1](#)、[11\) のサイト/1](#)。これらの資料より、新谷英子さんの略歴は次の通りである。

新谷英子さん（1943-2017）は、神戸市生まれ、神戸女子短期大学名誉教授。父秀夫（1907-1995）、兄琇紀、姉澤子と4人そろって彫刻家。1965年に京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）彫刻科を卒業後、渡米し、後に見解をひろげるためドイツ、イタリアで学んでいます。1977年「神戸市文化奨励賞」を、また、2011年に「兵庫県文化賞」を受賞。しかし、1995年、阪神・淡路大震災で自宅が全壊し、家族を失うという悲劇に見舞われ、また、自作も大きな被害を受けています。

なお、[12\) のサイト/4](#)によれば、新谷英子さんの父・新谷秀夫さんの略歴は次の通りである。

新谷秀夫さん（1907-1995）は金沢市に生まれる。県立工業学校を経て、昭和2年東京美術学校彫刻科入学、吉田三郎に師事。17年第5回新文展初入選。戦後は野外彫刻を手がけ、26年神戸生田神社境内で戦後初の野外彫刻展を開催。以後、各地にモニュメントを制作。59年まで武庫川女子大学教授をつとめた。兵庫県文化賞、神戸市文化賞受賞。

以上の資料などにより、有馬温泉の秀吉像とねね像の概要は次の通りである。

豊臣秀吉（茶人太閤像）

設置場所：兵庫県神戸市北区有馬温泉 太閤橋西詰の「ゆけむり広場」

建立時期：1982年5月30日

制作者：新谷英子（1943-2017）

設置経緯：本像は、有馬ライオンズクラブより、CN10周年記念として寄贈された。なお、CNとは、チャーター・ナイトと呼ばれ、新たに設立されたライオンズクラブが国際協会の一員となった証として交付される認証状の伝達式のことである。

北政所（ねねの像）

設置場所：兵庫県神戸市北区有馬温泉 ねね橋畔

建立時期：1997年4月10日

制作者：新谷英子（1943-2017）

設置経緯：本像は、有馬ライオンズクラブより、20周年および25周年記念として寄贈された。

また、有馬温泉の歴史や紹介の記事や動画は、次のサイトが優れている。

有馬温泉を散策（動画）：https://www.youtube.com/watch?v=k_F1-1uJc5Y

有馬温泉タンサン坂からねがい坂へ（動画）：

https://www.youtube.com/watch?v=TJIIqEa_Eo

秀吉像とねね像：<https://blog.goo.ne.jp/chiku39/e/1b7b2550f538159e684d5ac355a1d527>

有馬の歴史：<http://www.arima-onsen.com/history.html>

有馬の歴史：<https://wa-gokoro.jp/tourism/Japanese-hot-springs/782/>

ねがいの庭：https://loco.yahoo.co.jp/place/g-MYIp4a1yVIo/photo/?bm=sydd_spt_slo_p_ttl

六甲山：[神戸のアルペンルート 六甲山・有馬温泉を有馬・六甲周遊パスで堪能する | ゆうひの愉快的なソロ充ライフ！ \(ゆゆそらブログ\) \(yuyusora.com\)](#)

有馬の見どころ：<https://www.kinzan.co.jp/arima/kanko.html>

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://mapfan.com/spots/S3YW,J,N6JK4>
- 4) のサイト：<https://station-office.tokyo/shintetsu-arima-sanda-line/>
- 5) のサイト：<http://www.sakagakkai.org/profile/Hyogo/negai.html>
- 6) のサイト：<https://www.ryuusenkaku.jp/navi/200609.html>
- 7) のサイト：
<https://blog.goo.ne.jp/chiku39/e/1b7b2550f538159e684d5ac355a1d527>
- 8) のサイト：<https://www.museum.or.jp/event/82636>
- 9) のサイト：<http://www.kansaiartbeat.com/event/2014/D20D>
- 10) のサイト：<http://takay36.blog.jp/archives/7062002.html>
- 11) のサイト：<https://ameblo.jp/manabunc/entry-12290009779.html>
- 12) のサイト：
https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/collection/index.php?app=meibo&mode=detail&data_id=9864